

無駄と言うのは後にして

東京大学 理科一類合格（岡大附属中学校、岡山中央小学校出身）

自分がこれだけは肝に銘じて受験に向かってほしいと思うことを1つだけ言います。それは、「無駄かどうかを今決めるな」です。何かにつけて「無駄」と決めつけサボりがちなこと、最たるものは授業の予習ですね。これは絶対にやりましょう。古漢の全文訳を無駄だと言って1年生の時からネットの某サイトに頼る人がいますが、確実に自分で自分の首を絞めています。共通テストや2次試験を前に後悔するだけです。全文を書き写す作業すら、古典の文章を感覚の一部にしてしまえるという点で後々その意味は実感できます。1年生の時に今後取るかもわからない社会の科目を勉強するのもそうです。今習っていることが(受験に限らず)これからどう関わってくるかなど勉強しているうちはわかりませんし、それを無駄と言う資格もありません。私自身も受験を終えた今、ようやく「これはやってきてよかった」「これは無駄だったのかも」とうっすら分かってきているような状態です。自分が学校でやっていること(やらされていることを含め)は、受験の際自分の守備範囲や選択肢を広げる過程だと思って、だまされたつもりでちゃんと取り組んでおきましょう。

(中略)

結局お伝えしたいのは、本番まで自分のやり方で目の前のことを必死にやっていれば、何かしら結果は出る(可能性が高まる)ということです。その際、面倒そうな道を「無駄」と決めつけ避けることだけはしてほしくないと思います。やったことが無駄かどうかは全部が終わって初めてわかりますから、それまで必死にやるのみです。私の受験勉強は決して効率の良いベストなやり方ではありません。おそらく無駄なこともたくさんしました。それでも今考えればそうするより他にうまい方法は見つかりませんでしたし、見つける必要もなかった気がします。これから受験を迎える皆さん、まだ時間はありますから時には無駄な脇道にも逸れつつ、ぜひ本番までに信じられる自分を作ってください。それから、行き詰るときも必ず来るので同じような状況の友人にでも先輩、先生、家族にでも誰にでも頼ってください。実際入試が近づくにつれ私もうまくいかないことへのフラストレーションは溜まりに溜まりましたし、そういう時にやたらと先輩方の受験記を開いたりもしました。あまり抱え過ぎず、人に頼った分は春にきちんと結果の形で返せばいいですから、ぜひ悔いのない受験生活を送ってください。